



平成23年2月10日

「万引き防止対策に関する調査研究成果」について

香川大学と香川県警察は、「万引き防止対策」に関する調査を共同で実施してきました。2月1日に香川県万引き防止対策協議会において、調査結果に基づき、万引き防止対策について提案させていただきましたが、本日は本学より、万引き防止対策に関する調査結果を中心にご説明いたします。

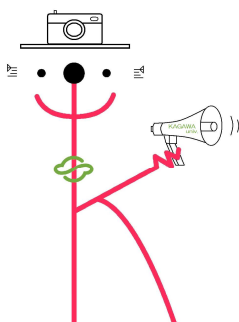
香川県では、万引きの人口比の認知件数が7年連続全国ワーストとなっており、万引き防止対策は喫緊の課題となっています。しかし、全国的に万引きなどの犯罪防止対策は、データに基づかず、思い込みや様々な思惑の影響を受けて立てられてきたといえます。また、結論ありきの調査が行われることも多く、冷静にかつ慎重に対策を立てる必要があると考えられます。実際、万引き対策については、規範意識の醸成に焦点を当てる動きもあり、こうした対策の単純化は、万引き防止に逆効果になることも考えられます。

香川大学と香川県警察は共同して、昨年4月から、万引きの被疑者、一般青少年、一般高齢者、補導員、被害店舗を対象として、データに基づいた万引き防止対策を提案するために、様々な視点から万引き防止対策に関する調査研究を行ってまいりました。今回の香川大学と香川県警察による「子ども安全・安心万引き防止対策」事業は、全国的にも先進的な試みであり、多方面から注目されております。

2月1日に、香川県万引き防止対策協議会の場において、今後の香川県での万引き防止対策についての提案を行いました。本日は本学より、万引き防止対策に関する調査研究により得られた成果を中心にご説明させていただきます。

(別添 説明資料をご参照ください。)

以 上



問い合わせ先
香川大学 教育学部 准教授 大久保智生
TEL・FAX : 087-832-1530
E-mail : tomoo@ed.kagawa-u.ac.jp

万引き防止対策に関する 調査報告

大久保 智生

香川大学教育学部

tomoo@ed.kagawa-u.ac.jp

子ども安全・安心万引き防止対策事業

子ども安全・安心万引き防止対策事業とは
「香川県警察の委託事業」

⇒総合大学である香川大学に対して香川県警察からの依頼で開始された

万引き防止対策に関する調査を心理学、工学、
経営学的見地から行う

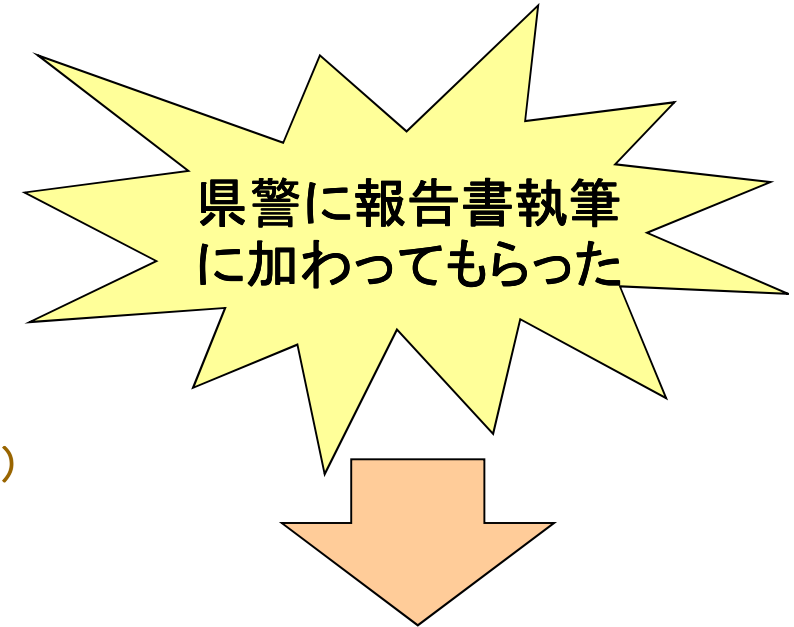
⇒実質的には香川県警の全面協力のもと香川県警と共同で調査を行った

万引き防止対策協議会において指導・助言を
行う

⇒2月1日の万引き防止対策協議会で成果に基づき、提言を行った

万引き防止対策に関する調査報告書

- 序章 香川県の万引きの現状と調査の目的
堀江(香川県警)・大久保(教育学部)
- 第1章 被疑者の意識調査
大久保(教育学部)・江村(大学院生)
- 第2章 一般の青少年の意識調査
大久保(教育学部)・松本(教育学部)
- 第3章 一般高齢者の意識調査
宮前淳(教育学部)
- 第4章 少年補導員の意識調査
宮前義(教育学部)・宮前淳(教育学部)
- 第5章 店舗の意識調査
大久保(教育学部)・江村(大学院生)
- 第6章 店舗のマーケティング調査
藤村(経済学部)
- 第7章 店舗の工学的調査
白木(工学部)・井面(工学部)
- 終章 まとめと今後の対策および提言
大久保(教育学部)・堀江(県警)



共同研究のメリットを生かして、現場から見ても実現可能な対策となった！

今回の報告

■ 店舗の意識調査 8月～9月

店長90名、店員112名に対するヒアリング調査

- 店長:万引きの実態、万引きへの対応、万引きへの対策、万引きへの意識
- 店員:万引きへの接触、万引き対策の理解、規範意識

■ 被疑者の意識調査 4月～9月

被疑者180名

- 規範意識、万引きの動機、心理状態、家族関係、友人関係、性格、万引きしやすい店、万引きしにくい店

■ 一般の青少年の意識調査 10月～11月

小学生374名、中学生573名、高校生739名、大学・専門学校生404名

- 規範意識、万引きの動機の語彙、家族関係、友人関係、性格、万引きされやすい店、万引きされにくい店

業種別の万引きの実態

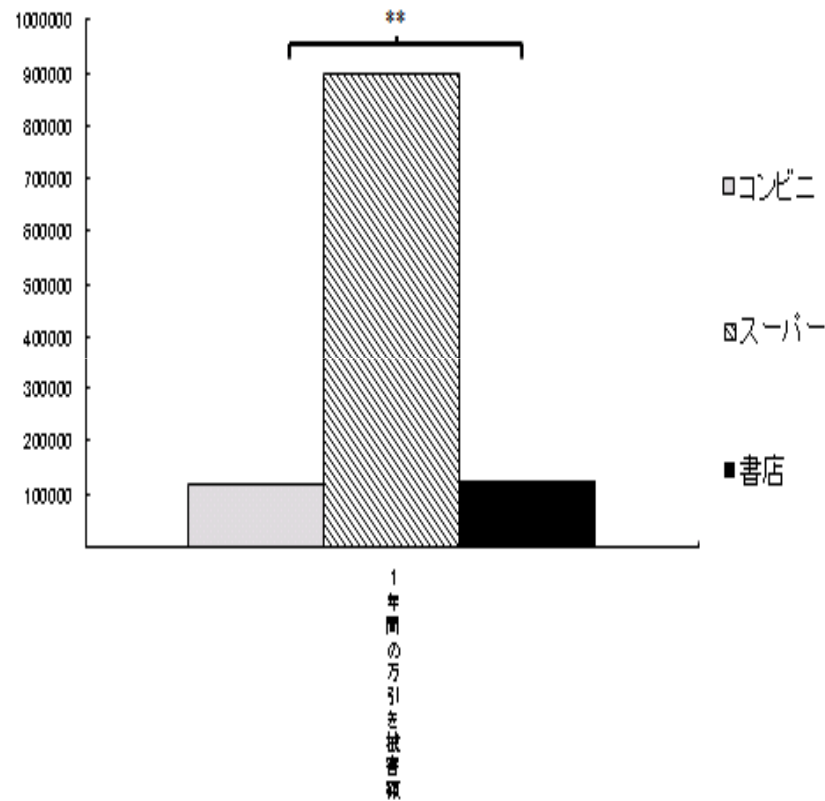


図5-7 1年間の万引き被害額の業種別比較

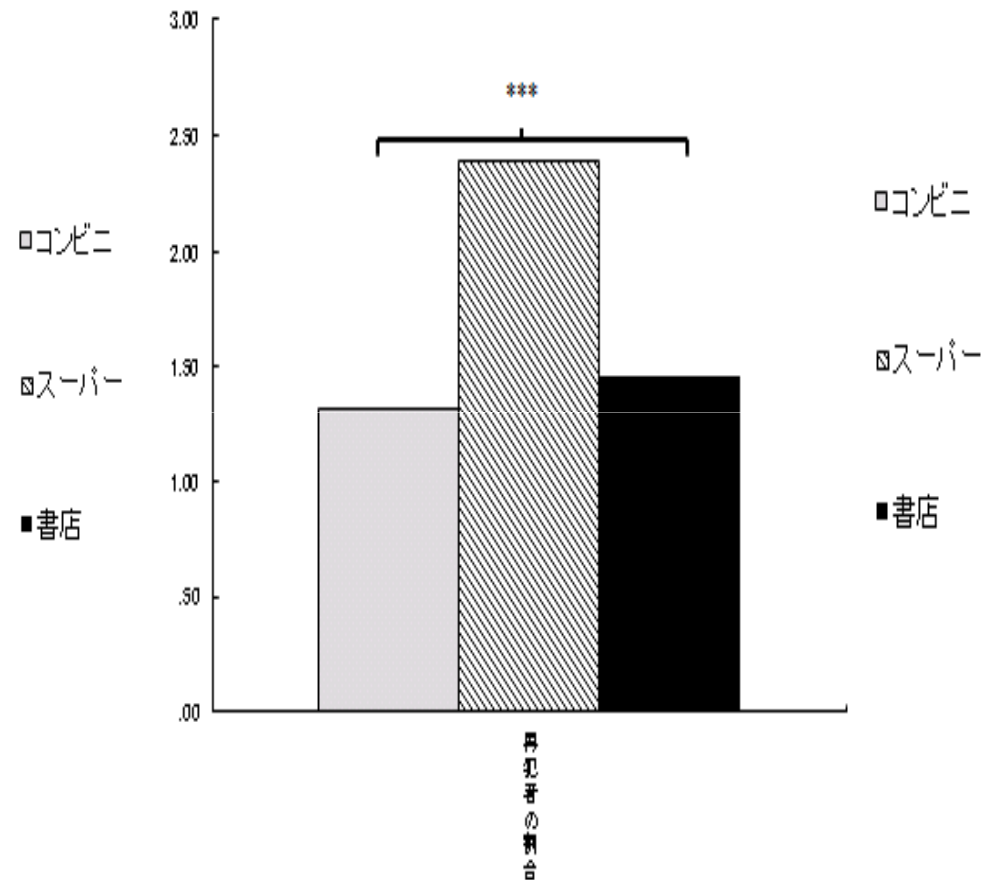


図5-6 再犯者の割合の業種別比較

業種別の万引きの実態

- コンビニは青少年の被疑者が多いことから、平日の朝と夕方の犯行が多い。
- スーパーは女性や高齢者の来客が多いことから、女性や高齢者の被疑者が多く、来客数の多い昼から夜にかけての犯行が多く、万引き件数、再犯者の割合、被害額全てが多い。
- 書店は青少年の被疑者が多いことから、夕方の犯行が多い。

業種別の万引きへの対応

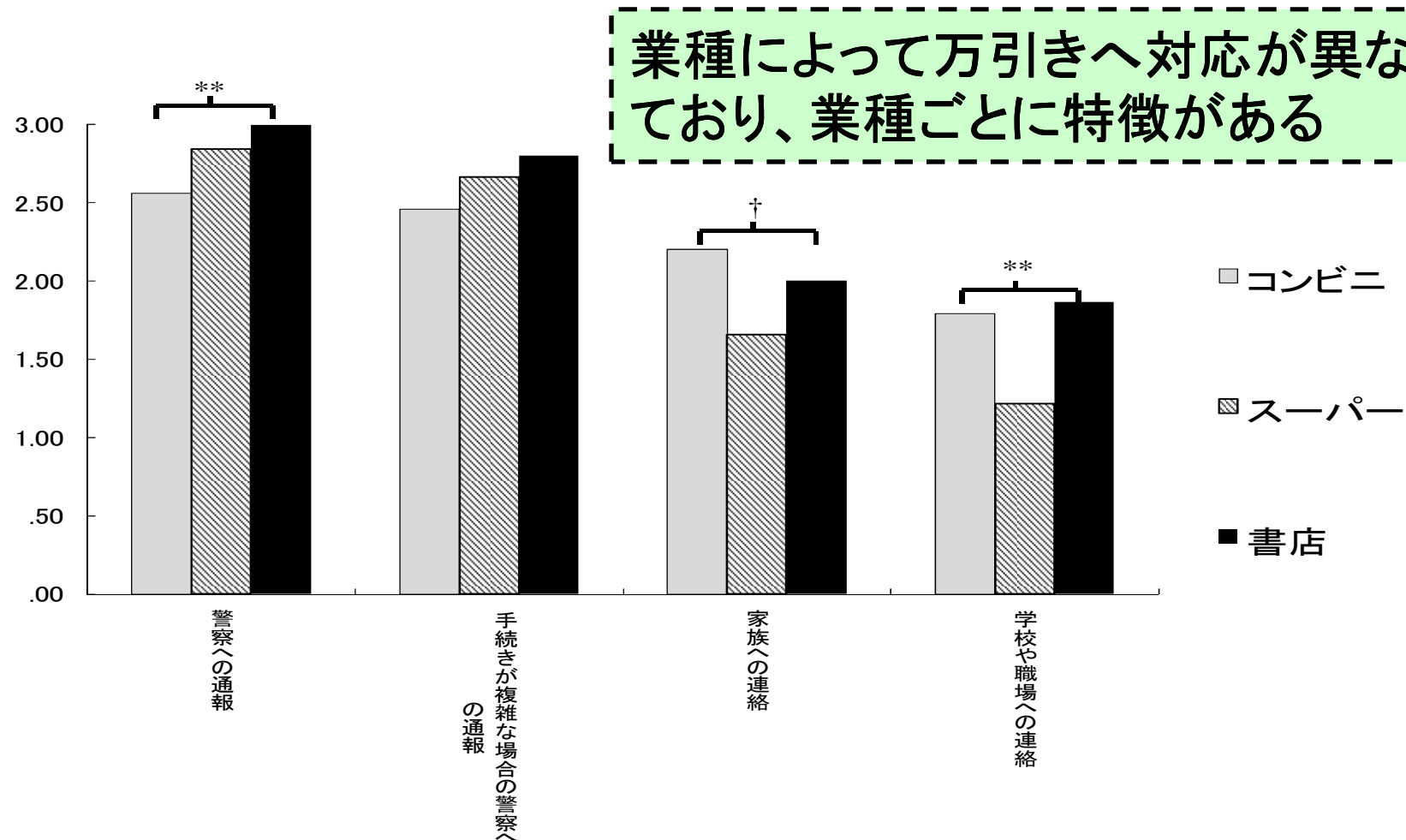


図5-8万引きへの対応の業種別比較

業種別の万引きへの対策

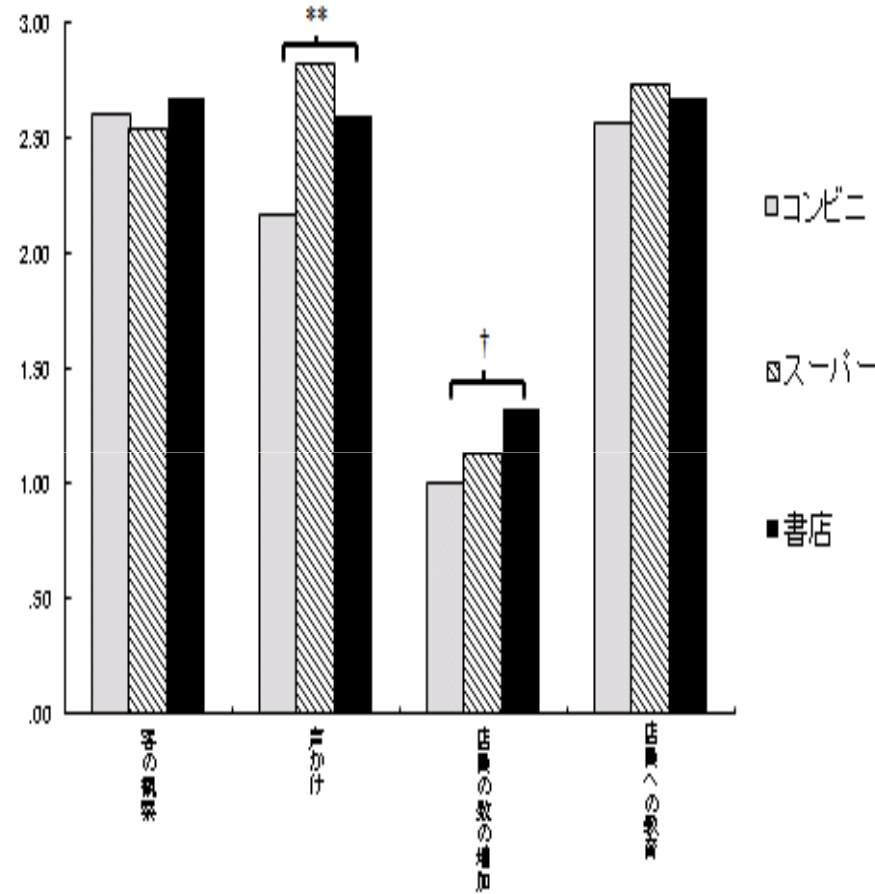


図5-9 万引きへの対策の業種別比較(人的対策)

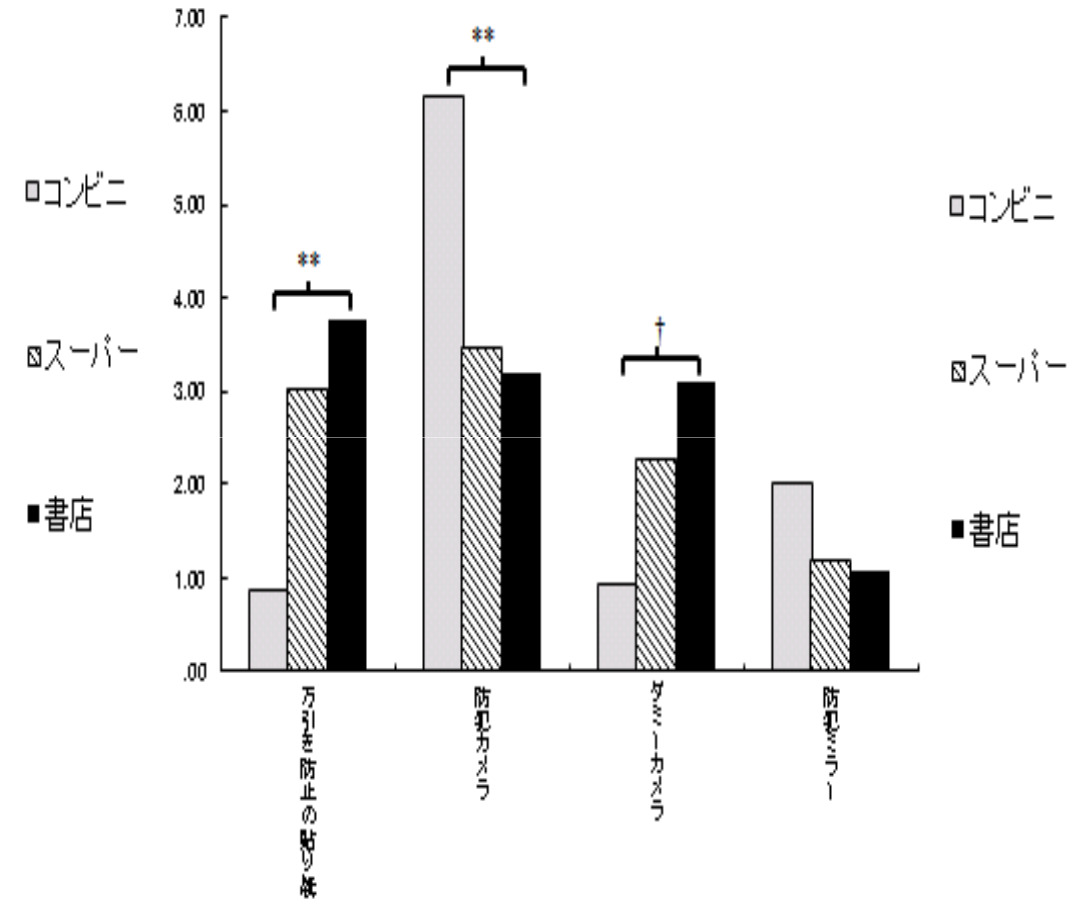
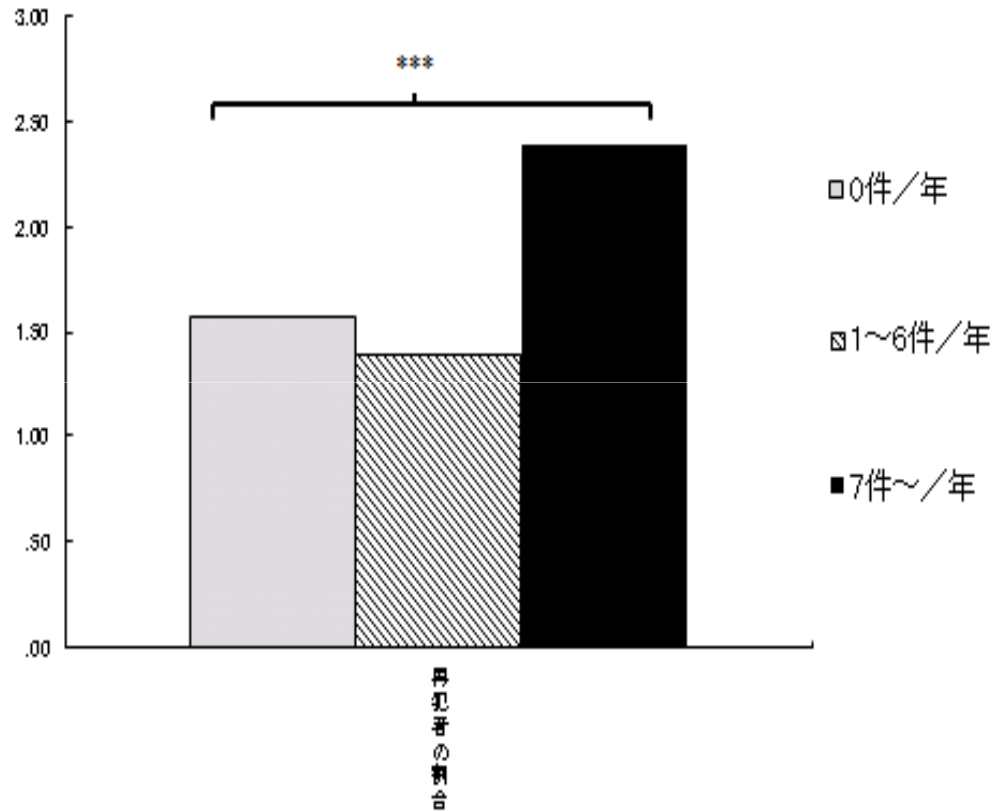


図5-10 万引きへの対策の業種別比較(環境的対策)

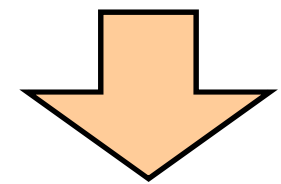
業種による万引きへの対策

- コンビニは、警備員が配置され巡回していることや万引き防止の貼り紙をしていることが少なく、警察の立ち寄りが多く、防犯カメラの台数が多く、防犯ミラーがあることが多い。
- スーパーは万引き防止マニュアルがないことが多く、警備員が配置され巡回や貼り紙をしていることが多く、警察の立ち寄りや防犯カメラが少なく、防犯ミラーが無いことが多く、声かけを積極的に行っている。
- 書店は、万引き防止マニュアルがあることが多く、警備員が配置され巡回していることや警察の立ち寄りが少なく、万引き防止の貼り紙をしていることが多く、店員数の強化を強化している。

認知件数別の万引きの実態



万引きが多い店舗は再犯が多かった。



万引きの多い店舗では再犯対策が必要になる

図5-13 再犯者の割合の万引きの認知件数別比較

認知件数別の万引きへの対応

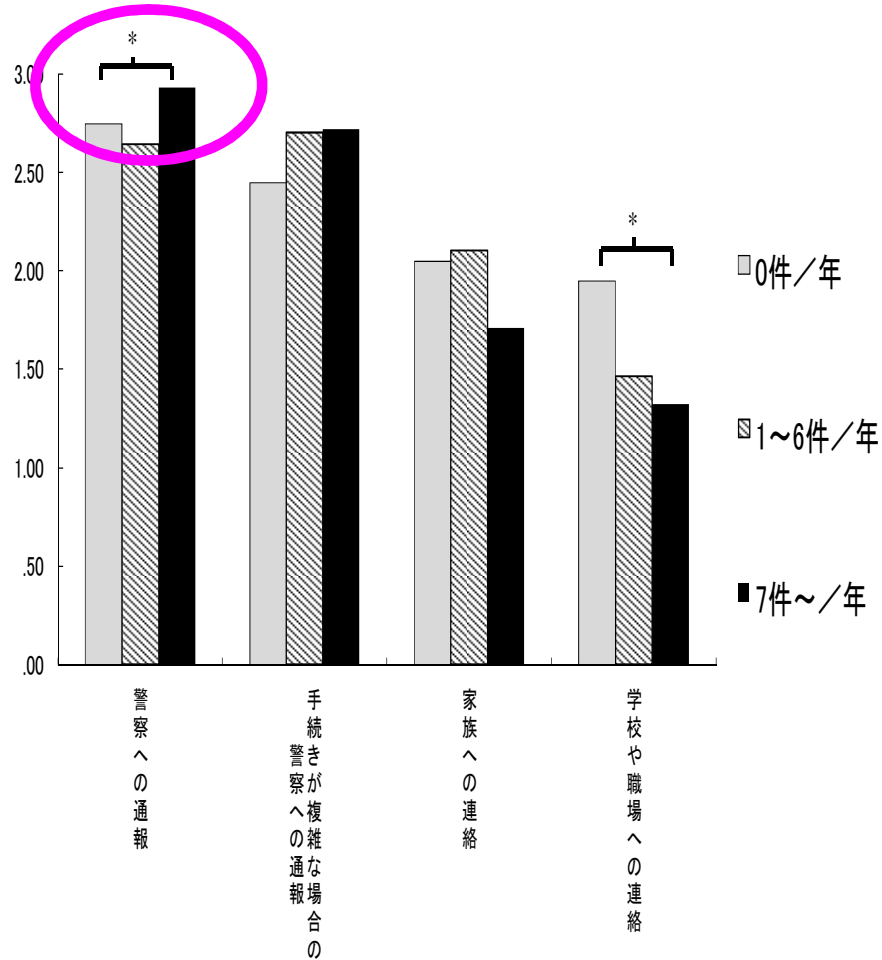


図5-14 万引きへの対応の万引きの認知件数別比較

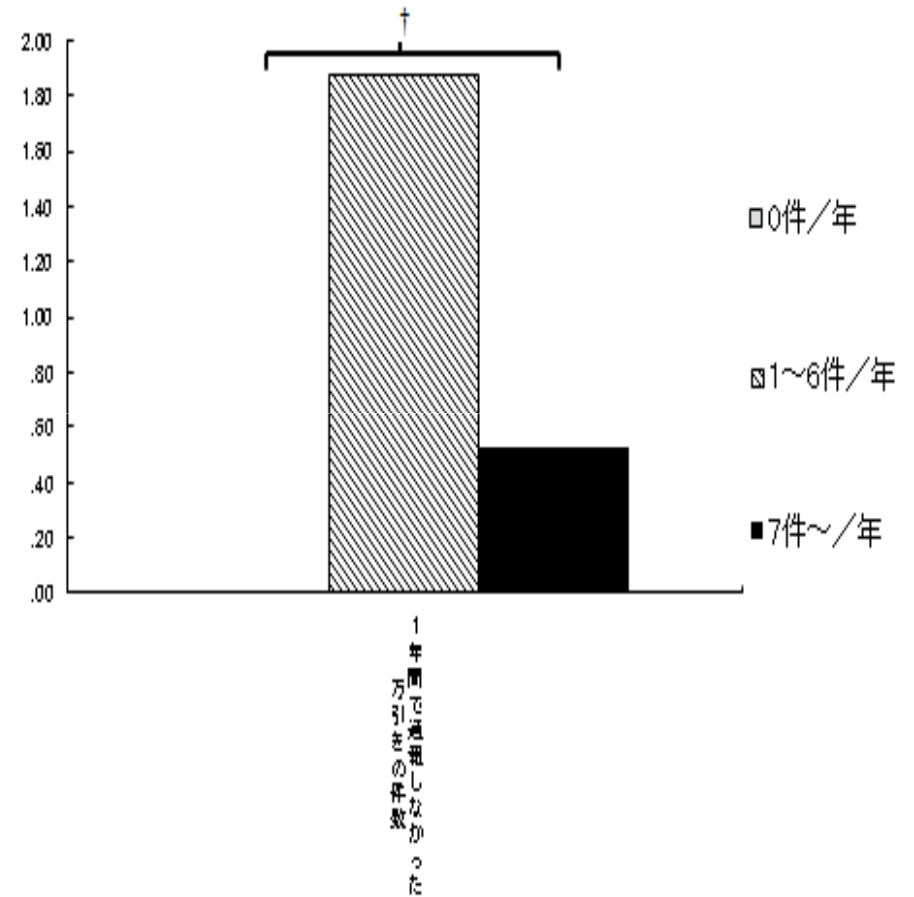


図5-15 1年間で通報しなかった万引きの件数の万引きの認知件数別比較

認知件数別の万引きへの対応

- 万引きが多い店舗は警察に通報していることから、このことが香川の万引きの認知件数の多さに関連している可能性もある。

- 万引きの少ない店舗は、万引きを発見しても通報しないことが多いことから、万引きの数が少ない店舗に通報の重要性を説いていくことも必要である

認知件数別の万引き対策

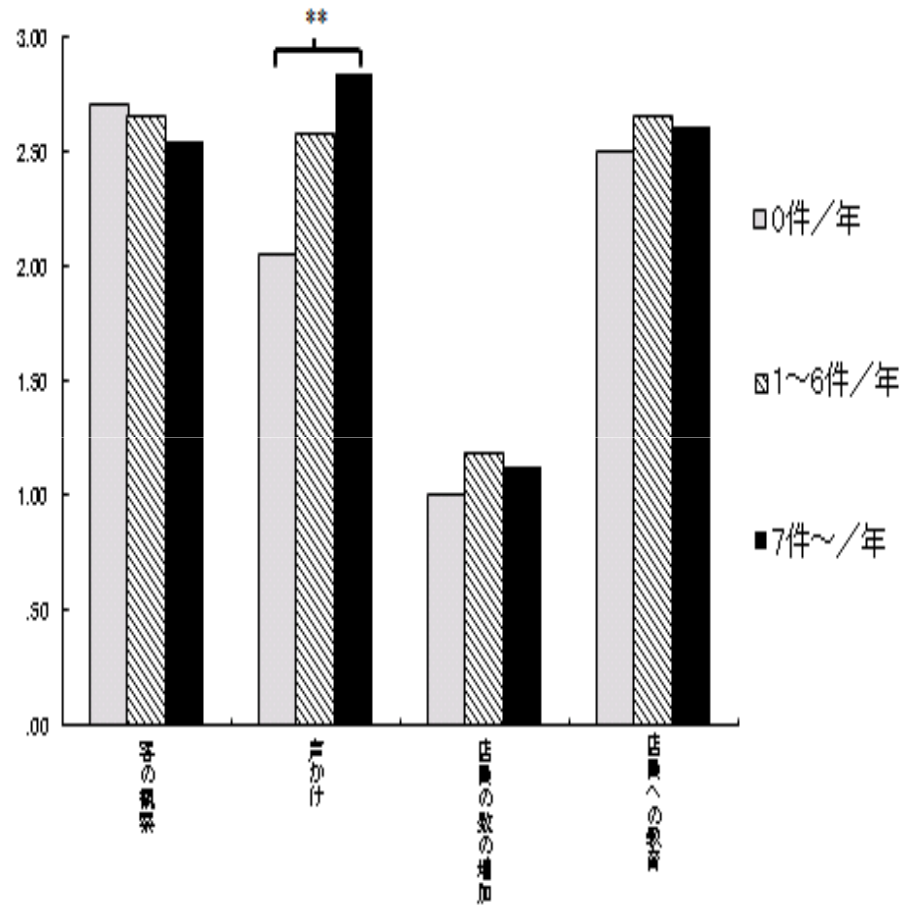


図5-16 万引きへの対策の万引きの認知件数別比較(人的対策)

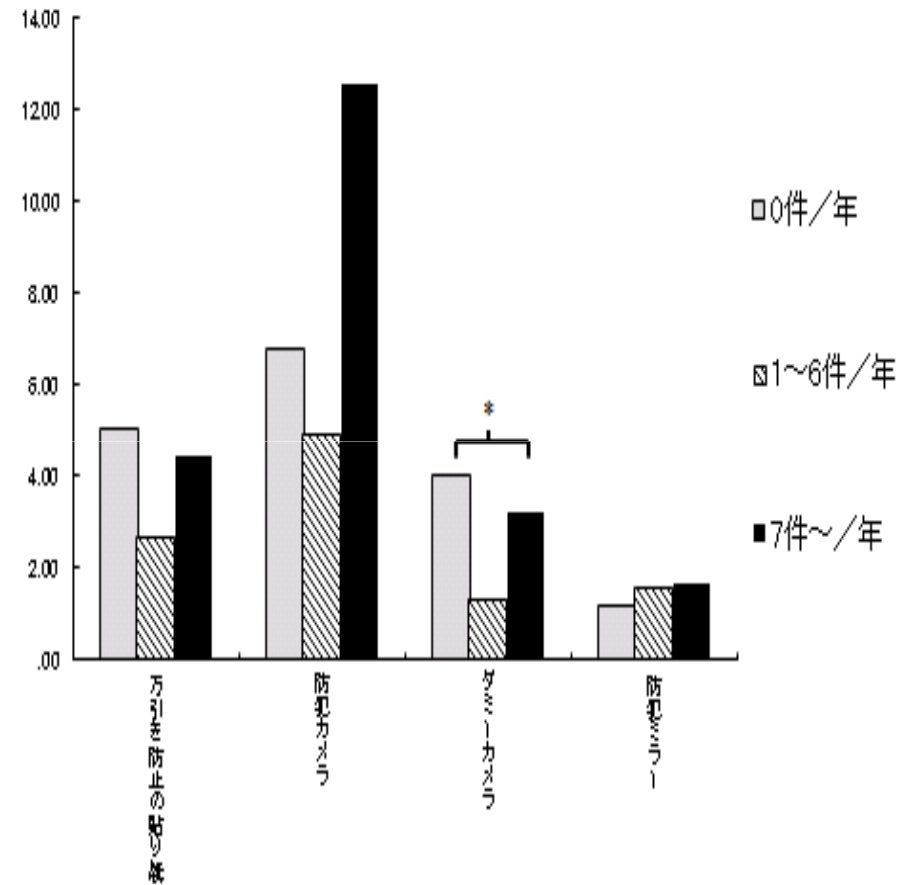


図5-17 万引きへの対策の万引きの認知件数別比較(環境的対策)

万引きへの対応の効果

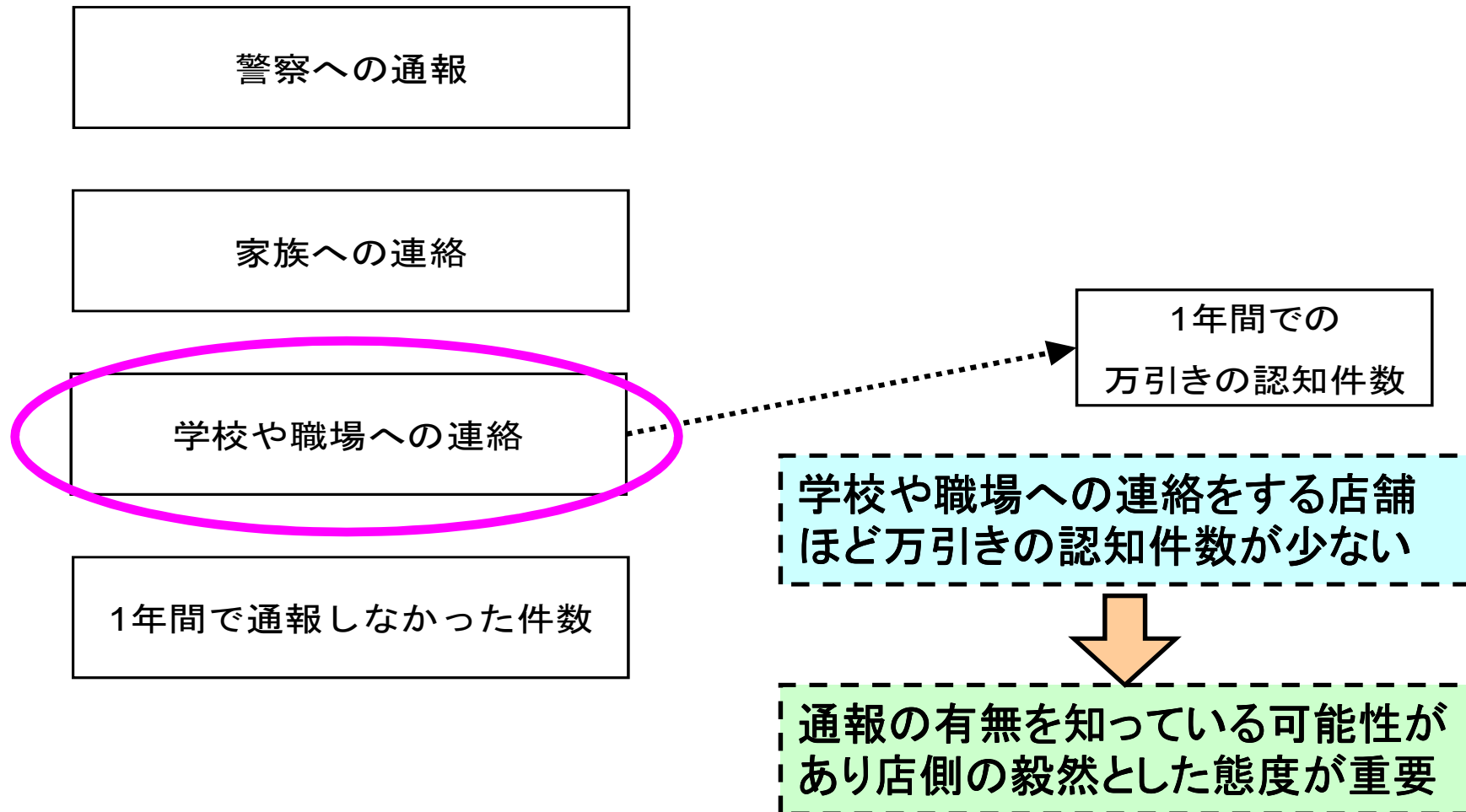


図5-18 万引きへの対応の効果

万引きへの対策の効果

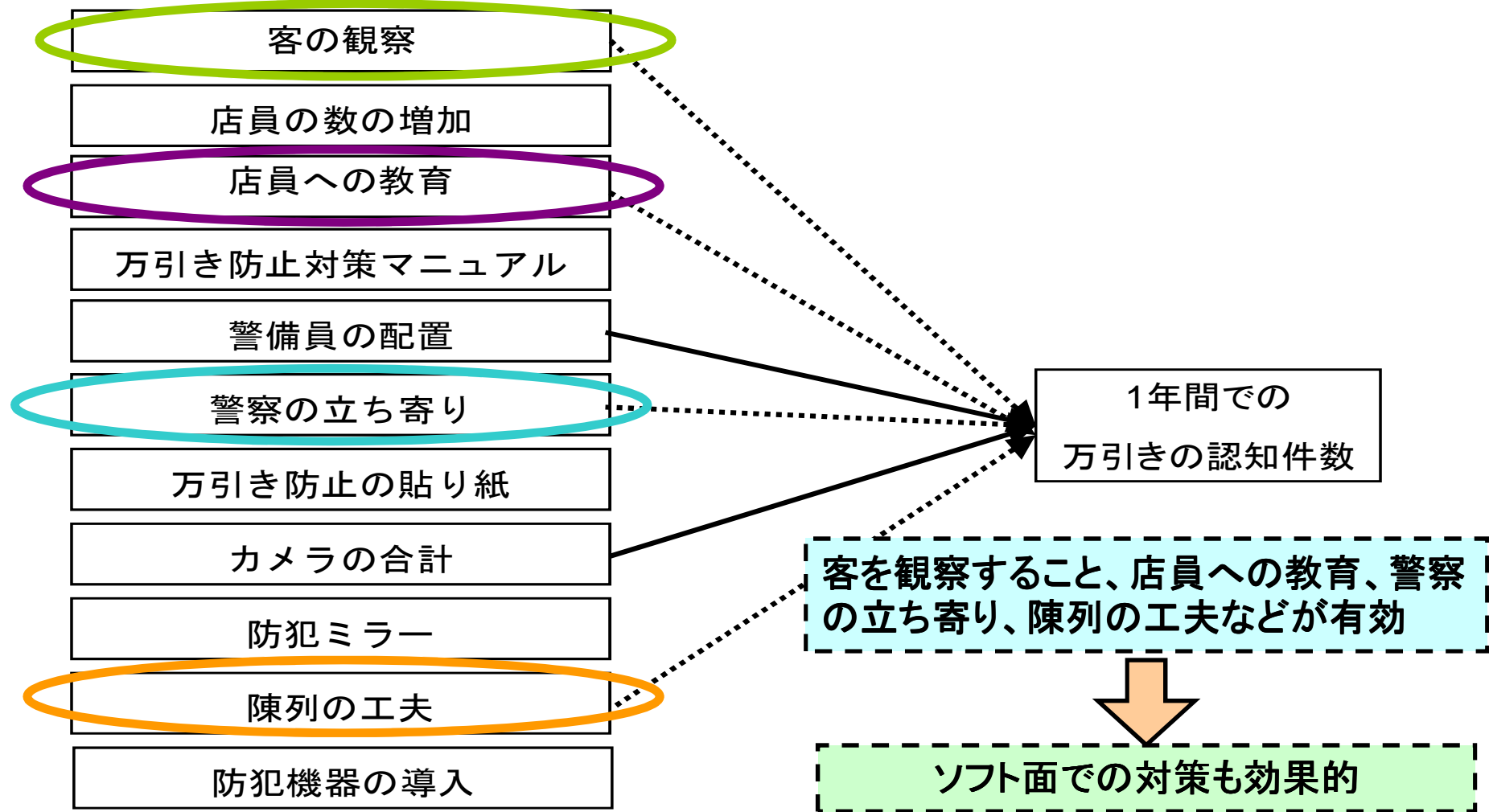


図5-19 万引きへの対策の効果

年齢による店員の意識

年齢の低い店員は年齢の高い店員と比べて万引きへの意識が低い。

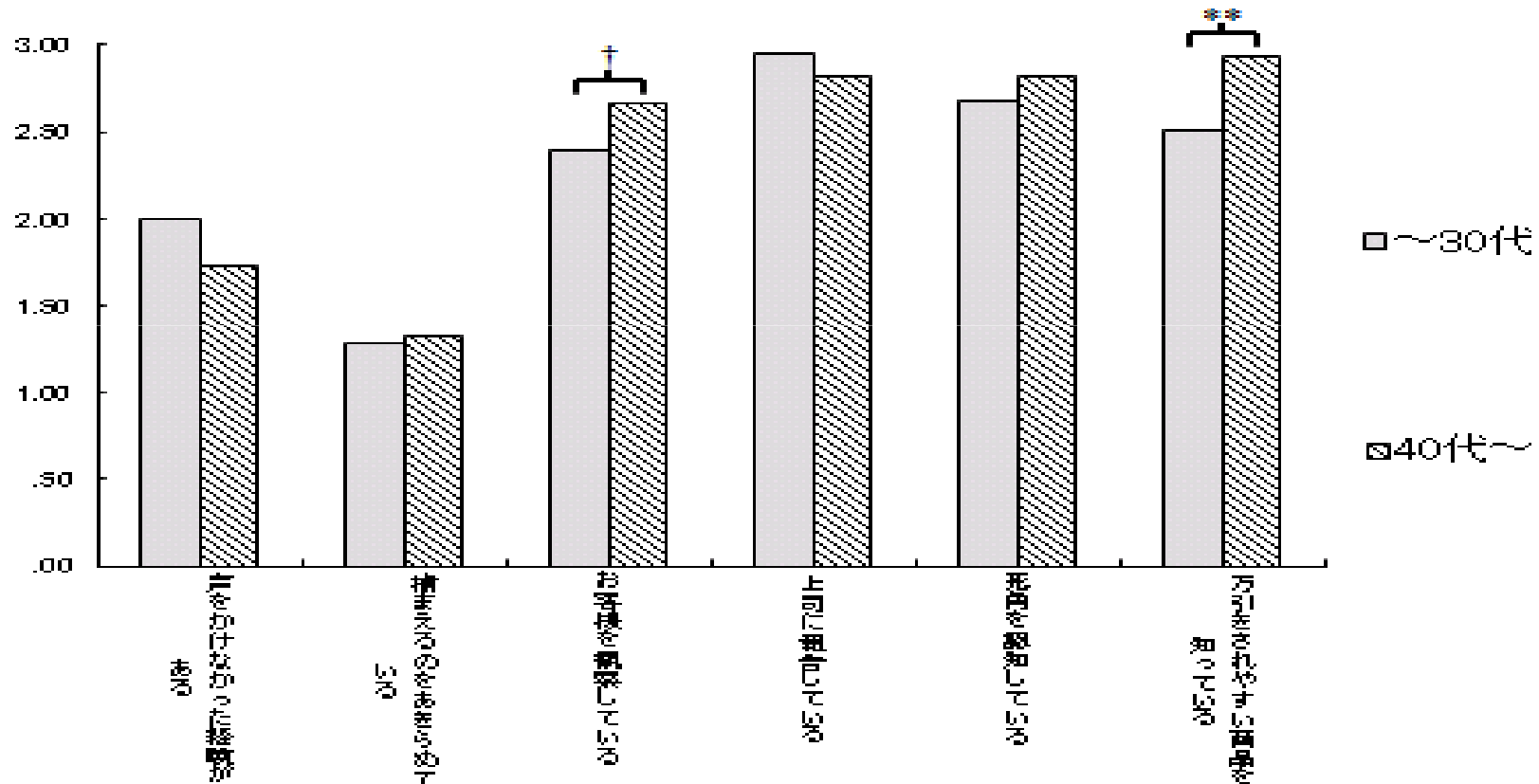


図5-20 店員の万引きへの接触および万引き対策の理解の店員の年齢別比較

まとめ

- 業種によって、万引きの実態や行われている対応や対策が異なる。
⇒ 業種によって異なる対策を考えていく必要がある。
- 万引きの多い店では再犯が多く、万引きの少ない店舗では万引きされた場合通報しないことが多い。
⇒ 全件通報制の推進には万引きの少ない店の通報が重要になる
- 予算をかけなくてもソフト面での対策も効果的である。
⇒ 店舗全体で万引きへの意識を高めていくことが求められる。
- 年齢の若い店員の万引きへの意識が低い。
⇒ 年齢の若い店員の万引きに対する意識を高めるような教育が店舗に求められる。